

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 多摩市立北諏訪小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒 206-0024
東京都多摩市諏訪1-60-1

E-mail sumita-katsushi@city.tama.tokyo.jp

Website http://schit.net/tama/eskitasuwa/?page_id=13

児童生徒数 男子 257 名 女子 233 名 合計 490 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

●【各学年での栽培活動】（花壇、畑、水田、教室）

- | | | |
|----|--|----|
| 1年 | アサガオ、ヒマワリ、サツマイモ、チューリップ | |
| 2年 | ミニトマト、ナス、ピーマン、ダイコン、
ダイズ、キュウリ、トウモロコシ、オクラ | |
| 3年 | キャベツ、ヒマワリ、オクラ、マリーゴールド、ダイズ、ホウセンカ | |
| 4年 | ゴーヤ、ヘチマ | |
| 5年 | インゲンマメ、アサガオ、イネ | |
| 6年 | ジャガイモ、ホウセンカ | など |

●【わんぱくタイムでの昔遊び】（1、2年生）

『わんぱくタイム』は北諏訪小学校の1年生と2年生で昔遊びや学校探検などの交流を行う時間です。昔遊びは、1年生では、けん玉、お手玉、おはじき、ヨーヨー、手ぬぐい取り、めんこなど、昔ながらの遊びに親しみます。

まずは自分たちで触って「ああでもない、こうでもない」と言いながら遊びますが、初めておもちゃに触れる子も多く、なかなかうまくいきません。そこで2年生のお手本を見ることでコツをつかんでいくのです。

また、地域のおじいちゃん、おばあちゃんとも昔遊びを通して交流します。自分たちの知らない遊び方や、物が無いなりに工夫して遊ぶことの楽しさを知ることができました。

こうして学んだ遊び方を今度は保育園生との交流で生かします。教えてもらうときはお客さんで、とにかく楽しみながらの活動でしたが、今度は自分たちがお兄さんお姉さんです。小さい子に分かりやすく教えたり、楽しい時間を過ごしてもらえるように会場を飾ったりと、自分たちなりに工夫しながら進めることができました。

上級生と下級生、そして地域の方とのつながりを通じた取り組みにすることができました。

●【食べ物博士になろう】（3年生）

3年生からは総合的な学習の時間が展開されます。1・2年生の生活科では体験的な学習からたくさんの事柄に気付き、そして気付きの質を高めていきますが、3年生からは気づいた事柄を整理・分析しながら学習を進めていきます。その中でもこの「食べ物博士になろう」では、児童にとって身近な「食」を題材にしたもので、身近で具体的なので児童にとってもイメージしやすく、学習の見通しをもったり、具体的な追究手段を考えたり、調査活動も計画したりといった総合的な学習の時間の流れを身につけることができました。

特に、今の日本は飽食と言われて久しく、食品ロス、食の安全性など多くの問題点も抱えています。自分たちが普段食べているものがどこからきているのか、そして食べ残してしまったものはどのように処理されるのか学習していく中で、子どもたちは自ら考え、自分たちの日ごろの食生活を振り返りつつ、何ができるのか、自分なりの答えを見つけていきました。

●【見直そうわたしたちの生活】（4年生）

4年生では、環境学習の導入として、地球温暖化によりどのように自然環境への影響が出ているのか、地域で行われている温暖化対策にはどのようなものがあるかを考えました。

まずはグリーンカーテンです。グリーンカーテンがある教室と無い教室の温度を毎日調べ、一か月間の室温を比較しました。自分たちが何気なく行っていたグリーンカーテンの効果をも身をもって感じる事ができました。

その後、自分たちの生活を見直し、自然環境に対して他にどのようなことができるのか、どのような活動に興味をもったのかについて話し合い、小グループごとに活動しました。

その中の一つに「ごみの減量」に対する手立てとして、段ボールコンポストがあります。子供たちは、ごみも自然に帰ることはうすうす知ってはいましたが、生ゴミ堆肥を作っている地域の方から、「ダンボールでできる生ゴミコンポスト」があることを教えていただき、実践することにしました。これは、自分たちの家庭から出る生ゴミが、少しずつ堆肥になっていき、それを、5年生で育てるイネの肥料にしようという取り組みです。子どもたちは家庭の生ゴミが肥料に変わる様子を、「土から湯気が出ているよ」「生ゴミを5kgは持ってきたから入れたときは重かったのに、今はすごく軽いよ」と実感していました。

●【キタスワイネ博士になろう】（5年生）

5年生では、校庭の一角にある、およそ40㎡の田んぼを使って毎年稲作を行っています。6年生からもらったイネモミからどのように発芽させるのかについて、理科の発芽の学習と関連させながら考えました。また、稲作の方法について自分たちで調べ、「田おこし」「代かき」などを実際に体験しました。田おこしの際にはコンポストの堆肥を田んぼに撒きながら田おこしし、過去の自分たちの活動が未来の自分たちの生活を支えることを知りました。しかし、自分たちだけでは限界もあります。地域の農家の方に手ほどきを受けながら、秋の収穫を迎えることができました。

収穫後も「脱穀」や「精米」など、自分たちの手で行いました。十分に大変さを感じた後、精米機を使わせることで、文明の進歩を感じるとともに、一粒の米が実るまでに農家の大変な苦労や思いがあるということに気づくことができました。また、お米はおにぎりにしてみんなでおいしくいただきました。

さらに、脱穀の際に残る稲わら、ぬか、もみ殻などの副産物の活用法についても調べ、地域の方にご指導いただきながら、しめ縄などのわら細工を作りました。

このように6年生で学習する環境問題へもアプローチできるように工夫しました。

●【世界を知ろう、日本を知ろう】（6年生）

6年生の1学期にはオリンピック・パラリンピックが2020年に行われるという話を導入に、それぞれの競技に出場する選手、自分が興味をもった選手、そしてそれらの選手が生まれ育った国の食生活、文化、言語、自然環境などのテーマで調べ学習を行いました。子どもたちも自分が興味をもったテーマなので、学校での調べ学習以外にも、家で自主的に調べてくる子もあり、それぞれパンフレットにまとめることができました。

また、単元の後半では、日本の伝統文化として、地域に伝わる「多摩太鼓」に

取り組みました。「腰を落とす」「手を高くあげる」「体全体を使う」など、慣れない動きに戸惑いながらも練習を重ね、学期末には保護者を目の前に、迫力のある音を出すことができました。

